開成町のいまむかし〈7〉

この町に住んで100年目の方も、100日目の方も、皆さんで確かめる開成町の「いま」と「むかし」。このコーナーでは、12回にわたり、文化財保護委員とともに町のいまむかしをたどります。

問 教育総務課 ☎82－5221

町内のいろいろなお祭り

お祭りは先祖の方々が神仏への御加護を祈ったことが始まりで、そのいくつかは時代の変化に適応しつつ今も受け継がれています。月を追って紹介します。

どんど焼き

町内の各地に今も道祖神が祀られ、正月早々広場で正月飾りや書初めなどが燃やされ、子どもたちを病気や災いから守るという慣わしです。子ども会を中心に、地域の協力によって続けられています。

花まつり

4月8日、お釈迦様の誕生を祝って、お寺では花で飾った厨子に小さなお像を安置し、甘茶をかけて祈願する慣わしで、今も中之名の福泉寺をはじめほとんどのお寺で行われています。

福泉寺の花まつり

十王尊のお祭り

7月25日に上延沢自治会館で行われています。十王尊とは、閻魔大王をはじめ秦広王、初江王等十人の王様が、人の死後、その人の生前の行いに対して裁くという古くから伝わる十王信仰です。地元の人々は線香をたむけ、先祖を供養し、併せて皆の健康を祈るのです。

吉田神社大祭

神社の総代会と自治会の協力によって7月28日に行われてきました。子どもたちが寒田神社神官のお祓いを受けた神輿で地域を練り歩き、夜は神楽殿で演芸が奉納されます。

円通寺の観音祭り

世話人会の主催で、観音堂には上流から流れて来たといわれる十一面観音が祀られ、縁日の8月17日に行われます。善福寺住職の読経、講仲間のお念仏の後、子ども会行事や盆踊りなどでにぎわいます。

酒田神社大祭

氏子総代会と自治会の協力で、10月10日前後に行われています。初めに神事が行われ、子ども会の神輿が地域を練り歩き、境内の露店、神楽殿の奉納演芸会は秋の風物詩です。

郷土のお祭りはお年寄りが若い世代に伝え、子どもたちが参加して学ぶという日本の美風が込められており、いつまでも続けてほしいですね。

文化財保護委員会 久保田和男

生き生きレポート

異学年交流「ふれあい給食」の様子

問 開成南小学校 ☎83-2250

異学年交流「ふれあい給食について」

交流学級（他学年の1・2・3組同士）と児童を半分ずつ入れ替え、給食当番の活動から給食を食べて片付けるまでを一緒に活動します。児童会企画委員会が企画・立案しています。

昨年度は年間5回実施することができ、どの学年とも交流することができました。今年度は、代表委員会の出席者の中から「他の1・2・3組とも交流したい。」という意見が出され、第1回ふれあい給食（7月）に児童の提案が反映され、他の学級との給食が決定しました。

給食から児童の主体的な活動に発展し、交流学級ごとに昼休みに一緒に楽しく遊ぶ行動につながっています。

このような異学年交流を通して、高学年は「低学年の手本になれるように」という気持ちが生まれ、さらに自分たちを高めようとする一方で、低学年は「高学年になったら自分たちが…」という意欲付けになっています。

開成南小学校教頭 三宅 美子

図書室だより〈10月〉

町民センター３階

【開室時間】火～金曜日 10：00～20：30
土・日曜日 10：00～17：00
【休 室 日】毎週月曜日・蔵書整理18日～21日
※貸出冊数は4冊まで、期限は2週間です
※10日(月)は祭日のため返却ポストも使えません

今月のこの１冊

アウシュヴィッツの図書係 アントニオ・G・イトゥルベ 著 小原京子 訳

1944年、アウシュヴィッツ強制収容所には学校があった。学校に8冊のぼろぼろの本があることは決して知られてはいけなかった。

主人公は14歳の少女で、彼女は本を隠し通す図書係を任される。本が見つかれば学校にいる先生や子ども全員が危険にさらされる。本を守る図書係は命がけの仕事であった。

死と隣り合わせになりながらも、彼女は生きる意欲、読書への意欲を失わず、収容所という地獄を生き抜こうとした。

新しく購入した図書（主なもの）

● 一 般 書 ●

- アンマーとぼくら　有川浩
- 東京會舘とわたし 旧館　辻村深月
- おおあたり　畠中恵
- 津軽双花　葉室麟
- スタフ　道尾秀介
- あしたの君へ　柚木裕子
- 治部の礎　吉川永青

● 児 童 書 ●

- 坂の上の図書館　池田ゆみる
- いもさいばん　きむらゆういち
- ひゃっくん　竹中マユミ
- バンドガール！　濱野京子
- ママのスマホになりたい　のぶみ

みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場
内 容 「落ち葉のしおりとカード」をつくります
日 時 10月８日㈯ 10:00～
持ち物 はさみ・カラーペン
対 象 ５歳～（未就学児は保護者同伴）
場 所 町民センター2階 小会議室Ａ
申込み 直接図書室へ または、☎ 82-5221

◇おはなし会（第２土曜日、第４水曜日）
日 時 10月８日㈯ 13:00～
10月26日㈬ 15:00～
場 所 町民センター３階図書室
申込み 申込みはいりません

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】家族みんなで本を読もう!

●家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、開成町では毎月１日を「開成ファミリー読書デー」にしています。

＊文 芸

ともしび短歌会 短歌

八月詠

あぢさゐは雨に似合ふと言ふけれど
晴れてにぎはふ祭り日今日は　府川ハツエ

「紫陽花に雨」は、よい取り合わせのたとえである。しかし、今日は、「あじさい祭り」日であり、人出も多く賑わう。そこで、「やはり晴れてくれるのが一番」と素直に喜びを表わしている短歌。

鶺鴒の地を叩く尾にリズムあり
可愛さもあり可笑しくもあり　諸星 末子

鶺鴒の仕草の特徴を上の句で的確に描写し、下の句では、それに対する感想を率直に表明している。また、「～あり」で結ぶ繰り返し表現が、読者に「成る程なあ」と共鳴を呼ぶ効果を上げている。

※鶺鴒＝スズメ目セキレイ科の鳥のうち、タヒバリ属を除くものの総称。全長20cm内外。長い尾をよく上下に振る。羽色は白と黒あるいは黄と黒。水辺を歩き回って虫を食べる。ハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイなど。かわらすずめいもせどり。

一葉の井戸を探してまち歩く
炭団坂などめぐりまよひて　辻岡 洋子

最近、文京区本郷界隈の文学散歩が人気と聞く。作者も一葉の住居跡を探し歩いたが、炭団坂辺りで迷ってしまったという。それが却って新鮮な発見に繋がり、楽しい体験・想い出にもなるのである。

※一葉の井戸＝樋口一葉（一八七二～一八九六）小説家・歌人。本名奈津。東京生まれ。作品に「にごりえ」「十三夜」「たけくらべ」など。旧居跡に残る井戸。

※炭団坂＝文京区本郷台地から菊坂の谷へと下る急な坂。近代文学発祥の道。

近藤 正臣 選

開成俳句会 俳句

九月吟

秋思ふとふたたび眺む古机　有賀 孝子

秋になると、心に感じたり思う事が多くなるものです。そうした心境を〈秋思〉と言い秋の季語です。さて、今月の掲句ですが一般には何ともない机だが、作者に取っては思いの深い家具の一つであったのです。不断忘られていた古い机を眺めた時に〈ふと〉物思いに更けたのです。古机が効果的です。

爽やかに偉業伝える語り人　新井たか志
雲のなく静かな今日の良夜かな　波多野すみ枝
こぼれ萩尊徳偲ぶ野川かな　濱本 主雄
お互いの老いを認めて秋扇　奥津ちわき
大男望み大きく尊徳忌　下澤 操子
天高し遥か見据える尊徳像　瀬戸 悦子
尊徳忌暴れ川てふ酒匂川　遠藤シヅ子
昔日の想いばかりや秋の蝶　遠藤マツエ
銅像に触れて師の影尊徳忌　遠藤まつ子
秋思ふと今日はけふなり力抜く　遠藤美津子

選者吟